

令和6年産りんごの生産概況

1 気象（黒石：りんご研究所）

(1) 積雪深

積雪深は、令和5年11月下旬、12月上旬及び下旬には平年を上回ったが、年明け1月以降には平年を大幅に下回り、消雪日は平年より9日早い3月19日であった。最深積雪深は12月24日の54cm（平年97cm）であった。

(2) 気温

平均気温は、2月下旬から3月上旬、5月下旬から6月上旬、9月下旬の一部を除き全般に平年並から高めに推移した。特に4月、6月、10月が高く、月平均気温は4月、10月は観測史上第1位、6月は1位タイとなった。真夏日は計21日で猛暑日はなかった（黒石アメダス観測値）。

(3) 降水量

降水量は、7月を除いて、4月から10月にかけて平年より少ない傾向だった。特に9月の降水量は45.0mmで平年比36%と過去20年間で4位タイで少なかった。一方、7月の降水量は146.5mmで平年比126%と平年を上回った。

(4) 日照時間

日照時間は7月、8月を除き、平年並から多く推移した。特に、4月は219.0時間（平年比125%）、6月は225.9時間（平年比125%）、9月は202.3時間（平年比129%）で観測史上第3位となった。4月から10月までの総日照時間は1,270時間（平年比107%）となった。

2 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は平年より2日早い4月5日、展葉日は7日早い4月11日であった。開花日は10日早い4月27日、満開日は11日早い5月1日、落花日は11日早い5月5日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）でのふじの発芽日は平年より2日早い4月5日、展葉日は5日早い4月14日であった。開花日は11日早い4月28日、満開日は11日早い5月2日、落花日は9日早い5月10日であった。

3 開花・結実と着果状況

開花量は全般に十分確保されたが、前年の猛暑などの影響で例年より少ない園地や樹が一部でみられた。また、開花期間中の天候やマメコバチの活動の減少などが影響し、地域や園地によってはふじの中心果で欠落などが見られたものの、側果の活用等により、いずれの品種も標準着果量を上回り、総じて結実量は確保された。

着果率は7月9日、10日に県が行った調査では、つがる39.3%、ジョナゴールド38.2%、王林39.7%、ふじ32.9%で、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率（つがる、ジョナゴールド：28.6%、王林、ふじ：25.0%）を上回った。

4 果実肥大（横径）

開花が平年より早かったことから、黒石における6月1日時点の果実横径は、つがるで3.0cm（平年比158%）、ジョナゴールドで3.1cm（平年比155%）、ふじで2.5cm（平年比156%）と平年をかなり上回った。

最終調査時では、つがるで9.2cm（平年比103%）、ジョナゴールドで9.6cm（平年比102%）と平年をやや上回り、ふじで8.9cm（平年比100%）と平年並であった。

県生育観測ほのふじの果実肥大（最終調査時）は、青森市で9.2cm（平年比107%）、弘前市で9.3cm（平年比104%）、板柳町で9.6cm（平年比108%）、三戸町で9.5cm（平年比109%）でいずれも平年を上回った。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、各品種とも概ね平年より3日程度早かったが、トキ、早生ふじでは平年並であった。

収穫始めは、つがるが9月7日頃、トキが9月30日頃、早生ふじが10月1日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月10日頃、無袋果で10月12日頃、ふじが有袋果で10月27日頃、無袋果で11月1日頃であった。

6 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年と比較して、糖度及びヨードでんぷん反応指数がやや高く、着色指数が同程度、硬度がやや低く、酸度が低かった。

トキは、糖度が高く、酸度がやや高く、ヨードでんぷん反応指数及び表面色指数が同程度、硬度がやや低かった。

ジョナゴールドは、糖度が高く、酸度及び着色指数が同程度、硬度及びヨードでんぷん反応指数がやや低かった。

有袋ふじは、糖度が高く、ヨードでんぷん反応指数がやや低く、硬度、酸度及び着色指数が低かった。無袋ふじは、糖度が高く、ヨードでんぷん反応指数及び蜜果率が同程度、着色指数がやや低く、硬度、酸度及び蜜入り程度が低かった。

7 主要病害虫の発生状況

(1) 病害

発生時期は、モニリア病の葉腐れ、実腐れ、黒星病及び褐斑病が平年より早かった。

発生状況は、腐らん病がやや多く、褐斑病、炭疽病が一部園地でやや多く、輪紋病、モザイク病が散見された。

(2) 害虫

発生時期は、リンゴハダニ越冬卵のふ化の初発日はやや早く、最盛日と終息日は早かった。ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化はやや早かった。キンモンホソガの羽化は早かった。モモシクイガの産卵消長はほぼ平年並であった。

発生状況は、ミダレカクモンハマキが一部園地で多く、リンゴハダニが一部園地でやや多かった。モモシクイガが津軽地域の放任園周辺の一部園地でやや多かった。ナシマルカイガラムシがやや多く、マメコガネが散見された。

8 生理障害等

一部園地で霜害などの影響により、さび果の発生がみられた。また、中生種の収穫前落果、日焼け、ビターピットが散見された。

開花は早かったが、8月の降水量が少なかったことから、ふじのつる割れの発生は平年並であった。

9 気象災害

6月13日に八戸市の一部地域で降ひょう被害があった。

※令和7年りんご生産情報第1号は、令和7年4月上旬に発表予定。